



楽しいことは
目標があり
成長があり
仲間がいることかな

四季彩々

NO.30 2010年1月号 隔月発行
発行 全日本年金者組合 岐阜県本部
岐阜市織田通7-13教育会館306号 TEL 058-4253-6266
編集責任者 上 宗治
土岐市妻木町3247-195 TEL 0572-57-3250

新しい仲間の紹介

11月と12月の加入者です。今回は何と！36人です。

12月末、岐阜県の組合数2000人目標が達成しました。

支部

- 岐阜 河村たか子
- 各務原 西尾信子 石丸つたえ 奥村ラクミ 松田時子
高木津満子
- 西濃 追立洋一 浅野進 森島
- 可児 林 一子 佐藤千代子 吉川泰子
- 多治見 山口トシロ 大橋純子 永江正道 吉川信彦
水野和加子 福谷悦子 吉川 理
- 土岐 加藤孝雄 吐生一久 加藤恵美子 水野末子
中野加ず美 佐々木信子 安藤伴子 加納昂江
- 中津川 小池次郎 桐本文一 青山和雄 岸 純子
- 境 平野 操 天木房枝 平野幸二 佐野節子
道添正子

バンザイ!



今年はオイラの年
仲よくしてネ!



2010年あなたに

員組合
数二〇〇〇人・目標達成



県執行部
書記長
岡部 義明

昨年は岐阜県本部結成20周年を迎えました。年末には組合員二千名を達成することができました。いつも増して、すがすがしい年明けとなりました。大きな節目であるだけに、その到達をともに喜びたいと思います。

年金者組合のめざすものは二つです

一つは、私たち自身がより豊かで充実した生活をともに作り上げていくことです。職場を離れ高齢期を迎え孤立しがちな生活の中で、人とのふれあいは何にも増して生きがいにつながります。趣味で、食事で、旅で、人とふれ

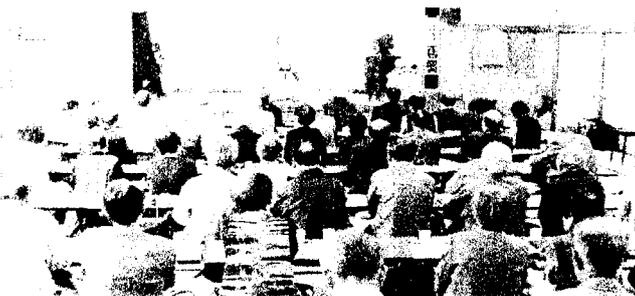
こう考えてくると、一人でも多くの人を誘い仲間を迎えることは私たちの活動の根源といえます。二〇一〇年。まだまだ、組合を知らない人がいます。そんな人とも一緒に行動できるようにすれば、世の中も変わってきます。そんな楽しい力をお互い持ちましょう。

あ、その中で心許せる仲間ができれば、どんなに生活の張りができることでしょう。組合はそれらの行事を築いてきています。

二つ目は、そのような生活を求めたお解決できない問題を、みんなで考え、いっしょに行動して解決を図っていくことです。追いつめられた思いは人に話せば心も晴れます。安心して暮らせる年金を、安心して受けられる医療制度など、共通する生活の不安は、ともに改善を求めていきましょう。

落語でポラシティア

西濃支部 早崎 静香



早崎静香さんの着物姿でのプロ並みの落語に楽しむ参加者

私は「夢の家西熊」という講座名で落語のポラシティアをしています。主な出演先は、老人会や各種団体の行事です。私と落語の出会い、大学部活動の勧誘からです。先輩の落語に感動し、落語研究会に入部しました。このため、大学専門である日本史の講義で学ぶより、落語研究をする方に力が入る4年間でした。大学卒業後は、小学校教員となりました。落語のことはすっかり忘れていました。ところが教員になって10年目、初めて低学年を担当したことをきっかけに、学校で毎朝7〜8分の昔話や童話を語り聞かせを始めました。この語りでは、落語研究会の経験が役に立ちました。その後、中学年や高学年、さらに特

全県支部交流集会

下呂温泉において11月18・19日に県支部交流集会が行われました。14の支部から60人集まりました。20周年の歴史と年金者の果たした役割について中央の副委員長・岡田敷さんのスライドとお話でした。分散会では意外な活動、楽しい行事の報告交流でした。夕食の交流では人形劇・クイズ・歌・踊り・紙芝居の出し物満載でした。年を重ねること内容が進化しています。とどめを刺したのは組合員の早川静香さんの落語でした。新しい仲間が増えるたびに豊かな内容になっていきます。

別支援学級を担任した時にも、この語り聞かせは続けられました。

語り聞かせのサークルである実践童話の会に入会し、年金者組合でも活躍された山本喜久雄先生にも指導を受けました。

20年前に大垣落語会が結成され、再度落語に挑戦することになりました。定年退職した今は、幼稚園や保育園での童話の語り聞かせと、大人の会合での落語をポラシティア活動として続けています。

絵本や映画のように、物語が画面で見えないのですが、言葉と顔の表情と身振りだけで話の世界に引き込まれれば、笑ったり、うなづいたりしてくる幼児や老人の反応が何よりも私の生きがいとなっています。

しかし、落語は地の大での説明は少なく、会話中心の話芸です。それだけに奥が深いものです。このため、私の落語研究はまだまだ続きます。

落ちつくまで……

2万円、5万円のケイタイ電話がゴロゴロ展示してある中から、0円のものを年末に手に入れました。ケイタイ電話を所持すると拘束されると思っていました。しかし、忘れることで有名になり、ケイタイ電話を手帳代わりに持つことにしました。ところが、機能が多くあり過ぎて、困りました。説明書に向かって一週間、目に汗をかきました。電話番号の登録、カメラの使い方など、多すぎる機能が混乱します。人に話せば、分からないことは孫に聞くことサラサラとセツトしてくれるそうぞうだ。自分の子供に聞くより孫の方が親切にやってくれるらしい。おいらの家族はまだ嫁さんをゲットしていません。▼メモ帳の機能があります。本の題名、忘れそうな人の名前、素敵な言葉などをメモすることができる。蛍光灯の大きさは、30、32、40とメモして蛍光灯を買いに行くと、これは重宝しています。▼予想外の機能が万歩計がありました。持っているだけで歩数がわかります。8千歩あるけば「がんばったね」と表示されます。記録が残る、いろんな里山を歩いた時、歩数で比べることが出来ます。元気度が数字に表れます。▼生活の中に社会的機能があれはと思うことがあります。「社会保険、削るなど大きな声を出すのになあ。

介護保険の問題点 — 応益負担 ③ —

各務原支部 豊島 和夫



県交流集会での発言と紙芝居を熱演する平野操さん

年金者組合に入ろう

飛騨支部 平野 操

定年退職して、久しぶりに母親大会に参加してきました。

そこで中津川の佐藤いなみさんに「あなたも年金者組合にはいりゃあよ、たのしいに」と言われました。

年金者組合がどんな活動をしているのか詳しくは知りませんが「たのしいに」という言葉が頭にずっと残っていました。

10月には「高齢者のつどい」へ津田さんに誘われていきまし

先日の飛騨支部の人たちとの交流でも「年金」のこと、「うだつ」のこと学ぶところいっぱい

夫をはじめ、近所、知り合い、対象者はたくさんいます。今の年金のあり方に怒りを感じている人が多いと思います。

どうぞよろしく、お願いいたします。

年末に平野さんが組合員3人、増やされました。飛騨支部はこれから、まぶしくなります。



県交流集会で中津川支部の人形劇は10人で構成されて、楽しさを振りまかれました。

介護保険とは

40歳になると保険料を納め、65歳以上になって、介護サービスが必要になった場合、ヘルパーさんのサービスや特養ホームなどの施設が利用できる制度です。

介護サービスの利用

- ①市町村に申請書を提出します。
- ②要介護認定のため調査員が来ます。
- ③認定審査会が要介護度を決め、介護サービスの支給限度額が決まります。
- ④居宅介護支援事業所を選び、ケアマネージャーに、ケアプランを作ってもらいます。
- ⑤ケアプランにもとづいて、事務所と契約し、介護サービスを利用し、利用料を払います。

応益負担

利用料は9割を介護保険が負担し、1割を自己負担します。利用者は、支払能力に関係なく1割の利用料(応益負担)を支払います。

介護保険の利用者は、2000年4月は、149万人であったが、2008年4月には360万人が増加しました。

応能負担

これまでの措置制度では、利用料は支払能力に応じた額(応能負担)でしたが、収入の少ない人が利用しにくくなったことです。

負担

負担)でしたが、収入の少ない人も安心して利用できましたが、応益負担になったので、利用しにくくなったのです。

たとえば、月5万円の年金収入で、年金から保険料を天引きされている人が、支給限度額内で、月12万円のサービスを利用すると月1万2千円の利用料の負担が必要になります。

問題なのは、1割の利用料を負担できず利用できない人の納めた保険料は、負担できる人の

介護に使われることになること

私は、これでは、介護保険は、社会福祉を実現する制度とはいえないのではと思います。

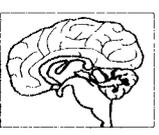
利用料の応益負担をただちに改め、応能負担にするか無料にするべきだと思っています。

今年1月7日、障害者自立支援法の福祉サービス利用の1割自己負担(応益負担)は、憲法違反でその負担取り消しなどを求める障害者の集団訴訟で国側は応益負担の廃止に合意しました。

「脳は若返る」

浜松医科大学名誉教授 高田明和さんの講演から

「ストレスは脳細胞を死滅させる。これは本当のことです。例えは、かわいい孫を失った方や、代々の事業を倒産させてしまった方が急にホケたようになる。こんなことがよくありますよ。非常に強いストレスに遭うと、脳細胞は死んでしまいます」



「脳細胞は70歳を過ぎても分裂して増えることが最近になって分かってきました。ガン細胞が分裂して増えるのと赤い光を出す薬品がありますが、スウエーデンのエリックソン氏はそれを利用して、脳細胞が増えるかどうかの研究を思い付きました。そこで、高齢の末期がん患者の協力を得てその

試行錯誤の野菜づくり

私は20数年前から米づくりをしているが、昨年初めて目標としていた「畝(せ)取り」を達成できた。1畝は1反(たん)の10分の1(約30坪)の面積です。この1畝で1俵(60kg)収穫することが「畝取り」です。昨年は八月上旬まで雨が多く全国的には平年よりやや不作の状況の中、互反で50俵収穫でき、目標を達成できたのは望外の喜びであった。

さて野菜の方では玉ねぎは苗を二か所の店で購入したが、一方の店は見た目も良くなく案の定はとんど根づかなかった。また、11月14日にえんどうを播種したが、芽の出

が良くなかった。えんどうは酸性に弱いので石灰を撒いてから播種したが、その頃雨が多



東那 加藤 昌宏

ネットで高田明和を検索すると詳細がわかります。